

# 普段の研究活動を評価するためのルーブリック(研究ⅡB)

( )組 ( )番 氏名( )

【活動の評価の観点について】

毎回の研究活動を、以下にルーブリックの形式で示した観点をふまえて自己評価・相互評価するとともに、学期ごとに重点とする【研究力】と教育活動のなかで総合的に培われた【厚みのある教養】の相関を踏まえて振り返ろう。評価することが目的ではなく、日々の研究活動を振り返ることで自分の改善すべき点などを把握し、次の活動へ活かすことが目的であることに留意する。

「研究」活動のルーブリック	到達度の評価			1学期 ※この学期で取り組んだ研究を振り返り、該当する観点すべてに記入してください。	2学期 ※この学期で取り組んだ研究を振り返り、該当する観点すべてに記入してください。	3学期 ※この学期で取り組んだ研究を振り返り、該当する観点すべてに記入してください。	
	A	B	C	評価 理由 ※その評価となった理由をできるだけ具体的に記述すること。	評価 理由 ※その評価となった理由をできるだけ具体的に記述すること。	評価 理由 ※その評価となった理由をできるだけ具体的に記述すること。	
【研究力】	①課題の発見と②仮説の設定	・明確な動機をもって、学術的・社会的な課題意識をもとに課題を設定し、課題に対して自らの力で仮説を立てたり、新しい事実をもとに提言したりしている。	・動機をもって課題を立てたが、研究する意義は十分まだ見いだせず、試行錯誤して仮説を立てたり、提言しようとしたりしている。	・単なる思いつきや表面的な発想から、研究することが不可能な課題しか設定できず、仮説を立てたり、提言したりすることができない。			
	③実験と検証	・課題を解決するために、文献から先行研究を検証したり、調査・分析方法を工夫・計画したりして実行することができる。	・文献の検証や調査・分析方法を工夫・計画しているが、まだ十分に実行できていない。	・文献の検証が不十分、または調査・分析方法の計画が立てられていない。			
	④分析と考察	・課題に対する調査・分析の結果から仮説を立てるとともに、他者が納得でき、課題に対応した考察にたどりついている。	・課題に対する調査・分析の結果から妥当な仮説を立てることができたが、まだ他者が納得できるような考察にはいたっていない。	・導かれた考察が課題に対応していなかったり、結論が妥当とは言い難い。			
	⑤新たな問いの発見	・課題を解決する過程で、新たな「問い」を見いだすとともに、関連する研究を深める経験ができています。 ・見通しを持って設定した仮説について繰り返し検証・修正したり、分析をもとに新たな実験を試行したりするなど、常に研究の過程を往還しながら研究全体のマネジメントを行っている。	・課題を解決する過程で、新たな「問い」を見いだすとともに、関連する研究について模索している。 ・設定した仮説を検証・修正したり、分析をもとに実験の検証を振り返ったりするなど、研究の過程を往還した研究マネジメントを行うことができた。	・課題を解決する過程で、新たな「問い」をまだ見いだせないでいる。 ・研究の過程を往還して研究全体のマネジメントを考慮することが不十分である。			
	【厚みのある教養】	・課題を解決するための基本的な資料・文献を参照するとともに、様々な知識・経験を結びつけて関連する知識を得ている。 ・課題研究を通して、他者との共有の中で知を繋ぎ、多様な視点を往還しつつ問題構造を俯瞰的に捉えている。	・課題を解決するための基本的な資料・文献を参照し、分野に関連する基礎知識を得ている。 ・課題研究を通して、他者との共有の中で自己の課題を相対的に捉えるとともに、多面的な視点を往還することができている。	・課題を解決するための基本資料・文献を参照できておらず、分野と関連する知識が不十分である。 ・課題研究を通して、他者との共有をしていないが、自己理解まで結びついておらず、相対的に課題を捉えることが不十分である。			
○【厚みのある教養】を伴った【研究力】の育成、【研究力】を身につけたことによる【厚みのある教養】の醸成							
自然科学、人文社会の分野を問わず、各教科や研究の時間を通して得ることのできた【厚みのある教養】を、自分の【研究力】の育成に活かすことができたかどうか。また、【研究力】を磨くことで、広い知見を有した【厚みのある教養】を身につけることができたかどうか。できるだけ具体的な例を挙げて振り返ってみよう。							